

LB メディアやハードディスクに鍵をかける メディアロック3

販売元： 株式会社ライフボート

開発元： 株式会社エスコンピュータ

利用ガイド



LIFEBOAT
a megasoft company

『LB メディアロック3』のプログラムと利用ガイドは、著作権法で保護された著作物であり、その全部あるいは一部を株式会社ライフボートの事前の明示的な許可なく複製したり、転送したり、格納したり、他のコンピュータ用に変換したり、あるいは他の言語に翻訳したりすると、著作権の侵害になります。

『LB メディアロック3』、『LB メディアロック3 フリーレシーバー』は株式会社ライフボートの商標です。

『キチッと秘密メディアロック2』、『キチッと秘密メディアロック2 フリーレシーバー』、『キチッと秘密ファイルロック』は、株式会社エスコンピュータの商標です。

IBM は、IBM Corporation の登録商標、OS/2、Personal System/2、AT、XT、PC はそれぞれ同社の商標です。

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

注意

この利用ガイドに記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。

株式会社ライフボートは、本利用ガイドあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

EDITION

April 2010

Copyright© 2010 by Lifeboat, inc.

All rights reserved.

Printed in Japan

PUBLISHED BY

株式会社ライフボート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

ホームページ: <http://www.lifeboat.jp/>

目次

第1章	ユーザ登録	4
第1節	ユーザ登録をされたお客様へのサービス	4
第2節	サポートについて	4
第3節	ユーザ登録の方法	4
第2章	LB メディアロック3の概要	5
第1節	LB メディアロック3について	5
第2節	LB メディアロック3の機能	5
第3節	動作環境	7
第4節	注意事項	8
第3章	LB メディアロック3のインストール	13
第1節	LB メディアロック3のインストール	13
第2節	LB メディアロック3のアンインストール	20
第4章	使用方法	21
第1節	ユーティリティ	21
第2節	秘密領域の種類について	24
第3節	秘密領域の作成	27
第4節	秘密領域を有効にする	32
第5節	秘密領域を終了する	34
第6節	設定の変更	36
第7節	読み取り専用のメディアに秘密領域を作成する	39
第5章	フリーレシーバー	41
第1節	フリーレシーバーについて	41
第2節	フリーレシーバーの機能	42
第3節	フリーレシーバーご利用上の注意事項	42
第4節	フリーレシーバーをメディアに添付するには	43
第5節	フリーレシーバーの使用方法	45
第6章	キチットと秘密ファイルロック	49
第1節	キチットと秘密ファイルロックについて	49
第2節	ファイルの準備	49
第3節	使用方法	50

第1章 ユーザ登録

『LB メディアロック3』のご購入後、必ずユーザ登録を行ってください。

第1節 ユーザ登録をされたお客様へのサービス

ライフポート製品をお持ちのユーザ様は、新規ユーザ登録をいただくことによりバージョンアップ情報や優待販売のご案内、テクニカルサポートなどのサービスをご利用いただけます。

ご登録いただいた内容に変更がある場合は登録内容を変更することができます。

第2節 サポートについて

ライフポートでは、ユーザ登録をされたお客様に対し、そのソフトウェアが使用可能なシステム環境で発生した問題に対するテクニカルサポートを行っております。サポートセンターのご利用方法等は、本製品に同梱された補足説明書をご覧ください。

第3節 ユーザ登録の方法

ご購入された『LB メディアロック3』は、同梱されたユーザ登録はがきをご利用いただくか、ライフポートのホームページ(<http://www.lifeboat.jp/reg/>)のオンラインユーザ登録メニューから簡単にお手続きいただくことができます。詳しくは本製品に同梱された補足説明書をご覧ください。

第2章 LB メディアロック3の概要

第1節 LB メディアロック3について

『LB メディアロック3』は、リムーバブルメディアや外付けのハードディスクに暗号化領域を作成し、大切なデータを安全に保存 & 持ち運びができるデータ管理用ユーティリティソフトです。暗号化領域はパスワードを1回入力するだけの簡単操作で利用することができ、“パスワードの不正入力への対策”や“暗号化領域の利用期限の設定”等の機能も搭載しておりますので、大切なデータを不正利用から保護することができます。

第2節 LB メディアロック 3 の機能

- リムーバブルメディアや外付け HDD を丸ごと秘密メディアにできます
 - ・ リムーバブルメディアや外付け HDD に秘密領域を作成できます。
 - ・ ドライブレターの指定／自動指定が可能です。
 - ・ AES による強力な暗号化をします（鍵長 128/256 ビット選択可能）。
 - ・ 秘密領域の再フォーマット可能です（作成時はメディアの種類によって FAT または FAT32 に自動的にフォーマットされます）。
 - ・ 同時に複数の秘密領域を有効にして使用できます。
- パスワードを 1 回入力するだけの簡単操作
 - ・ パスワードを1回入力するだけの簡単な操作で秘密領域の認証をすることができます。
- 秘密メディアをどのPCでもパスワード認証できる（フリーレシーバー）
 - ・ 作成先のリムーバブルメディアに『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を添付することができます。
 - ・ 『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を利用して、『LB メディアロック3』がインストールされていないコンピュータから作成済みの秘密領域をパスワード認証することができます（新たに秘密領域を作成することはできません）。

- 秘密領域に有効期限を設定可能。
 - ・ 秘密領域に有効期限を設定することができます。有効期限を過ぎた秘密領域は使用することができなくなります。
- パスワード総当たり攻撃時に秘密領域を自己破壊できる
 - ・ 秘密領域を作成する際に、パスワード入力間違い回数の上限を指定して、その指定された回数分パスワード入力を間違えると、秘密領域を自動的に破壊することができます。
- 米国標準技術局(NIST)による暗号化方式AES(鍵長256ビット)を採用
 - ・ 指定するパスワードのハッシュ値を暗号化のキーに使用します。
 - ・ パスワードは1バイト以上の英数字、記号、空白を含む半角文字(半角カナを除く)を指定することが可能です。
 - ・ 異なる秘密領域には異なるパスワードを指定することが可能です。
- 管理者権限無しで使えるファイル／フォルダの暗号化ツールを同梱(キチッと秘密ファイルロック)
 - ・ 持ち出し先の PC で管理者権限無しで使用することができます。
 - ・ ファイル、フォルダ単位の暗号化を個別にすることができます。

第3節 動作環境

LB メディアロック3 /LB メディアロック3 フリーレシーバー

- 対応機種： 各社DOS/V機(NEC PC-9800、PC9821シリーズ、Macintoshでは動作しません)
- 対応OS： 日本語Windows XP SP2以上 /Vista /7(32ビット、64ビット)
- 対応CPU： Pentium 300MHzインテル互換CPU(Vista/7の場合は1GHz以上)
- ハードディスクの空き容量： 20MB以上(フリーレシーバーは10MB以上)
- 必要メモリ： 256MB以上(Vista/7の場合は1GB以上)
- 秘密領域作成可能ドライブ/メディア： ハードディスク/SSD(内蔵・外付け)、DVD-RAM、MO、USB フラッシュメモリ、コンパクトフラッシュ、メモリースティック、SD/SDHCカード、他
- 対応するリードオンリーメディア(※)： CD-R/RW、DVD+-R/RW、DVD+-R DL、BD-R/RE/RE DL
 - ※ 『LB メディアロック3』によりハードディスクに作成した秘密領域をライティングソフトでリードオンリーメディアに複製した場合、その複製されたデータを秘密ドライブとして認証することが可能なメディア
 - ※ 『LB メディアロック3』を使用して、リードオンリーメディアに直接秘密領域を書き込むことはできません。
 - ※ フリーレシーバーには秘密領域を作成/削除する機能は含まれておりません。

キチット秘密ファイルロック

- 対応機種： 各社DOS/V機(NEC PC-9800、PC9821シリーズ、Macintoshでは動作しません)
- 対応OS： 日本語Windows XP SP2以上 /Vista /7(32ビット、64ビット)
- 対応CPU： Pentium 300MHzインテル互換CPU(Vista/7の場合は1GHz以上)
- ハードディスクの空き容量： 2MB以上
- 必要メモリ： 256MB以上(Vista/7の場合は1GB以上)

第4節 注意事項

LB メディアロック3のご使用前に必ずお読みください

<秘密領域のフォーマットタイプについて>

『LB メディアロック3』で作成される秘密領域(秘密ドライブ)は、FATまたはFAT32で自動的にフォーマットされるようになっております。2GBを超えるファイルをご利用の場合には、Windowsの「フォーマット」機能を利用して、作成した秘密領域をNTFSでフォーマットし直してご利用ください。

- ※ 秘密領域は仮想ドライブになりますので、別途パーティション操作ソフトなどを使ってフォーマットしたりサイズ変更したりすることはできません。
- ※ 秘密領域へのアプリケーションのインストール、秘密領域に保存されたファイルやフォルダを直接呼び出す方法はサポートしていません。
- ※ DVD-RAM、Blu-rayに秘密領域を作成する場合、その秘密領域をNTFSでフォーマットすることはできません。
- ※ 作成した秘密領域の圧縮および、圧縮ドライブに秘密領域を作成することはできません。
- ※ 秘密領域の中にさらに秘密領域を作成することはサポートしておりません。

<作成できる秘密領域数について>

『LB メディアロック 3』で作成可能な秘密領域は、フォーマット済みの各ドライブ(Windows上で、ドライブレターが割り当てられる単位)で1つずつ、ドライブ数分作成することができます。

<秘密領域作成先ドライブのフォーマットについて>

秘密領域を作成することができるドライブのフォーマットは次の通りです。

FAT、FAT32、NTFS: 内蔵/外付けHDD、MO

UDF: DVD-RAM

- ※ Blu-ray ディスクには直接秘密領域を作成することはできません。ハードディスク上に秘密領域を作成した後、ライティングツールを使用してデータを書き込む必要があります。

＜他のアプリケーションとの併用について＞

他の仮想ドライブソフトとの併用はサポートしておりません。

＜外部接続機器の取り外しについて＞

USBポートなどを利用して接続したストレージデバイスに秘密領域を作成して使用している場合、そのデバイスをPCから取り外す際には「LB メディアロック3 ユーティリティ」の画面上にある「停止」ボタンで、事前に秘密領域を停止してから取り外しの処理を行ってください。

＜ドライブをフォーマットする場合＞

重要：作成した秘密領域、及び秘密領域を作成した作成先ドライブをフォーマットすると秘密領域に保存したデータは削除されます。ドライブをフォーマットするには十分にご注意ください。また、秘密領域を作成した際には、作成先ドライブにフォルダ「¥SML」が作成され、フォルダ内に秘密領域と同容量のファイルが生成されます（初期設定の場合）ので、「¥SML」およびフォルダ内のファイルを削除しないように十分に注意してください（Ver.2.0形式で秘密領域を作成する場合、秘密領域を構成するファイルは作成先ドライブのルートディレクトリに生成されます）。

＜秘密領域を構成するファイル＞

作成先ドライブに初期設定（Ver.3.0/Ver.2.5形式）で秘密領域を作成すると、その作成先ドライブにフォルダ「¥SML」（隠し属性）が作成され、

SML.dat

SML0.dat

SML1.dat

.....

という名前の隠しファイル属性をもつファイルが自動生成されます。

※ フリーレシーバーをコピーする設定で秘密領域を作成する場合は、作成先ドライブにフォルダ「¥メディアロック」が同時に作成され、フリーレシーバーが格納されます。

※ Ver.2.0形式で作成する場合、秘密領域を構成するファイルは作成先ドライブのルートディレクトリに作成されます。

※ Ver.1.0形式で秘密領域を作成する場合は作成先ドライブのルートディレクトリに以

下の形式のファイルが作成されます。

MediaLock.dat

MediaLock0.dat

.....

ファイル名に数字を含むファイルは、秘密領域のサイズに応じて2GB単位で作成されます。

(例えば、秘密領域のサイズが 71GB で Ver.3.0 形式の場合)

SML.dat

SML0.dat

SML1.dat

.....

SML34.dat

が作成先ドライブの「¥SML」に生成されます。このとき、SML0.dat、...、SML33.dat のサイズがそれぞれ 2GB となり、SML34.dat のサイズが残った 1GB というようになります。

秘密領域に重要なデータを書き込む場合、これらのファイルをすべてバックアップするようにしてください。「¥SML」およびこのフォルダ内のファイルの属性は「隠しファイル」になっているため、フォルダ、ファイルが見当たらない場合はエクスプローラの「フォルダーと検索のオプション」-「表示」-「詳細設定」から「ファイルとフォルダーの表示」-「すべてのファイルとフォルダーを表示する」をチェックしてエクスプローラ上でこれらのファイルを表示させるなどにより存在を確認してください。『LB メディアロック3』自身にはバックアップ機能はありませんので、市販のバックアップソフトやバックアップデバイスを別途用意してバックアップを取ってください（隠しファイルの表示方法はご使用のOS環境により異なります）。

バックアップしたデータを戻すには、『LB メディアロック3』がインストールされたコンピュータに、バックアップしたデータをリストアしたデバイスを接続してください。バックアップ前に指定してあったパスワードにより、秘密領域を認証することができます。

<パスワードの管理>

秘密領域を作成する際に設定したパスワードは、ユーザ様の自己責任で厳重に管理してください。製品の性質上、パスワードの紛失に関するサポートはご提供できません。

＜秘密領域の作成時間＞

最初に使用開始するために必要な秘密領域の作成は、フォーマットしながら処理を行います。PC 環境により異なりますが作業時間は以下をご参照ください。

1GB： 約1秒（暗号化アルゴリズムにVer.3.0形式 AES 256bitを使用 環境：CPU-Core 2 Duo T7700、メモリ-2GB、Windows 7 Professional、内蔵HDD(NTFS)に秘密領域を作成した場合。秘密領域の作成時間はコンピュータの環境、作成先のメディアによって異なります。）

＜インストール時およびアンインストール時のユーザアカウントについて＞

インストールおよびアンインストールの際は、管理者権限でログオンしておく必要があります。

＜ご利用環境上の留意点について＞

『LB メディアロック3』では、コンピュータに接続されたストレージデバイスを定期的に巡回し、秘密領域を含んだメディアが装着されたかどうかを監視しています。ストレージデバイス（より正確にはそのデバイスドライバ）によっては、フォーマットされたメディアの有無を正確に返してこない場合があります、そのような場合にはコンピュータの動作が遅くなったように見えることがあります。

『LB メディアロック3』では、秘密領域に暗号をかけているため、通常のドライブに比べてファイルの読み書きに要する時間が長くなります（実測で1.5倍から2.0倍程度※）。

※ 内蔵 HDD の場合。ファイルの読み書きに要する時間は使用するメディアにより異なります。

秘密領域が有効となっている間、それに対して頻繁に読み書きを繰り返すような場合、それぞれが小さなファイルであっても、ファイルシステム上は秘密領域を格納するファイル全体に変化が出るため、アンチウイルスソフトやストレージリソース管理ソフトのリアルタイムモニタへの負荷が高まる場合があります。

『LB メディアロック3』を使って秘密領域にファイルを書き込みますと、設定したアルゴリズムでデータが暗号化されます。「AES」、によって暗号化されたデータは、ディスク解析ツールを単純に使用しただけで解析できるものではありません。しかし、秘密領域に設定する

パスワードを推測しやすいものにしておくと、秘密領域を作成したメディアが万一他人の手に渡ったときに解読されてしまう危険性が增大します。

パスワードの紛失、有効期限を過ぎた秘密領域に保存されたデータ、あるいはパスワード入力間違い回数指定により破壊された秘密領域に保存されたデータの復旧に関するお問い合わせは一切受け付けません。秘密領域に大切なデータを書き込む際は、必ず秘密領域を作成したメディアとは異なるメディアにバックアップを取るようにしてください。バックアップ方法については FAQ (<http://www.lifeboat.jp/support/faq/>)を参照してください。

＜旧バージョンをご使用の場合＞

『キチット秘密メディアロック』(Ver.1.0)、(Ver.2.0)、(Ver.2.5)および、フリーレシーバー(Ver.2.0)、(Ver.2.5)がインストールされている場合、完全にアンインストールしてから本製品をインストールしてください。旧バージョンをアンインストールしても作成した秘密領域は残りますが、バックアップを取ってからアンインストールを実行してください。

＜よくある質問(FAQ)＞

下記のページにて FAQ を公開しております。

<http://www.lifeboat.jp/support/faq/>

第3章 LB メディアロック3のインストール

第1節 LB メディアロック3のインストール

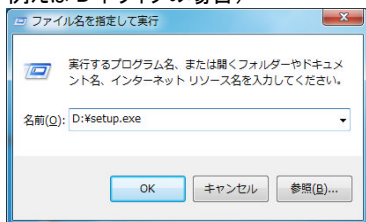
注意！ :インストールをするにはライセンスキーが必要です(ライセンスキーは、パッケージ製品の場合、同梱されたユーザ登録はがきに記載されています)。事前にご用意ください。

※ インストールは必ず管理者権限で Windows にログオンしてから実行してください。

1. 『LB メディアロック3』のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にインストールのためのメニューが起動します(Windows 7/Vistaでは「自動再生」に関するポップアップメッセージが表示されるので「setup.exeの実行」をクリックします)。自動的に起動しない場合は、次のようにしてメニューを起動することができます。

Windows 7/Vista

「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「ファイル名を指定して実行」の順に操作して、D:\%setup.exe を入力して「OK」をクリックします。(CD-ROM ドライブが例えば D ドライブの場合)

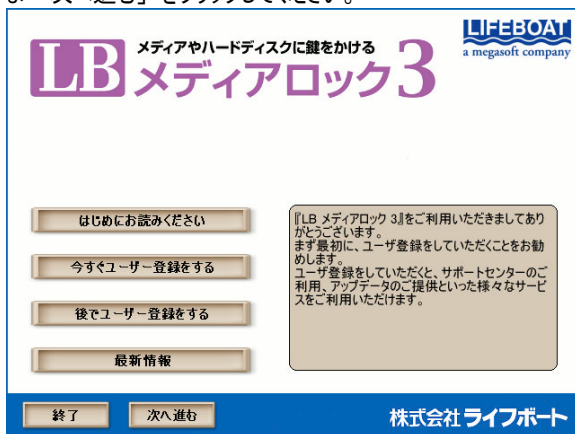


Windows XP

「スタート」-「ファイル名を指定して実行」とします。

Windows 7/Vista の「ユーザーアカウント制御」を有効にしている環境では、「認識できないプログラムがこのコンピュータへのアクセスを要求しています」というメッセージを表示する警告画面が表示されますが、「許可」をクリックして「setup.exe」を実行してください。

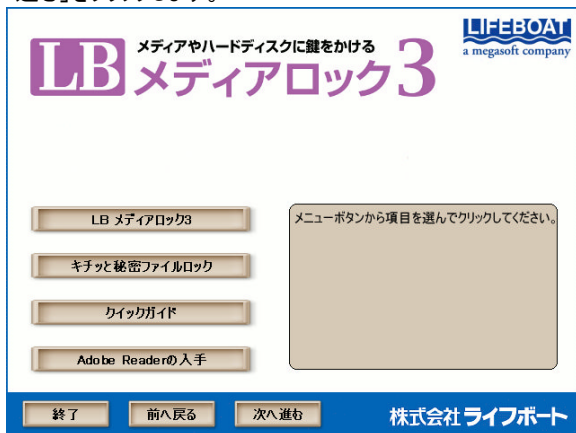
- はじめにユーザ登録画面が起動します。「今すぐユーザ登録」をクリックすると、ブラウザが起動してライフポートのオンラインユーザ登録ページが開きますので、登録手続きをお願いします。登録が完了したら「次へ進む」をクリックしてください。ユーザ登録はインストールが完了した後からでも可能です。後で登録したい場合はそのまま「次へ進む」をクリックしてください。



Windows 7、Windows Vista の環境では、プログラムのインストール完了等により「終了」をクリックした場合やインストールを途中で中断した場合に、「プログラム互換性アシスタント」画面で「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」と表示されます。この場合、「キャンセル」をクリックして「プログラム互換性アシスタント」を終了してください。

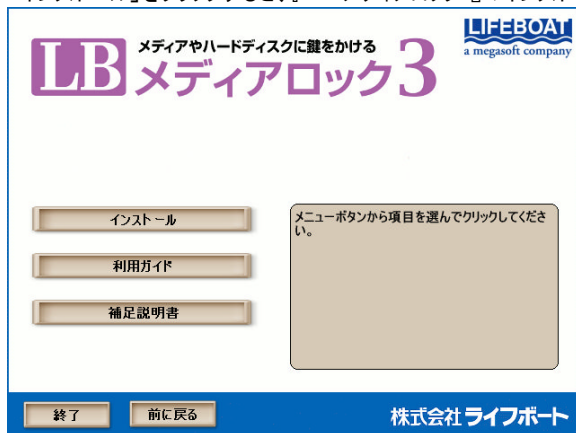


3. プログラムの選択画面が表示されます。「LB メディアロック3」を選択して「次へ進む」をクリックします。



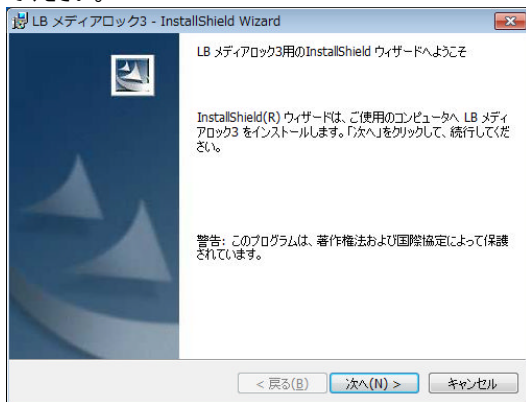
メニューボタンの説明	
LB メディアロック 3	『LB メディアロック3』を使用する場合にクリックします。
キチッと秘密ファイルロック	『キチッと秘密ファイルロック』を使用する場合にクリックします。第6章参照
クイックガイド	クイックガイドを開きます。簡単な使用方法についてはこちらをご参照ください。
Adobe Reader の入手	Adobe Readerがコンピュータにインストールされていない場合にクリックします。

4. 「インストール」をクリックすると、『LB メディアロック3』のインストーラが起動します。

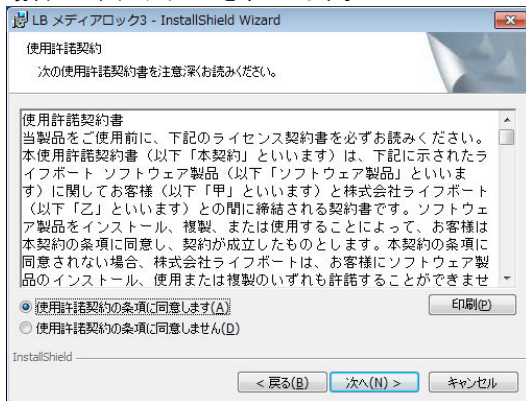


メニューボタンの説明	
インストール	『LB メディアロック3』のインストールを開始します。
利用ガイド	今ご覧いただいているドキュメント『LB メディアロック3 利用ガイド』を開きます。あらかじめAdobe Readerがインストールされている必要があります。
補足説明書	『LB メディアロック3 補足説明書』を開きます。あらかじめAdobe Readerがインストールされている必要があります。

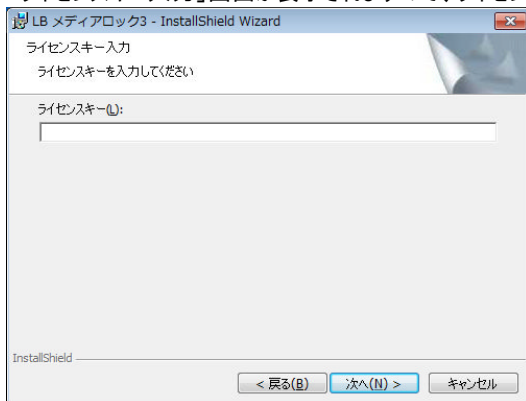
5. 「LB メディアロック3 セットアップへようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。



6. 「使用許諾契約」画面が表示されます。契約内容をよくお読みいただき、同意いただける場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」、同意いただけない場合には「使用許諾契約の条項に同意しません」を選択してください。同意いただけない場合には、インストールを中止します。



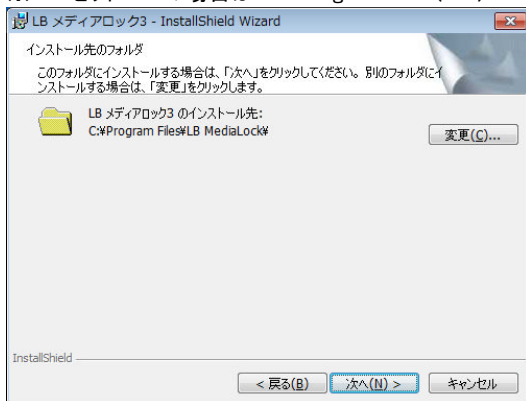
7. 「ライセンスキー入力」画面が表示されますので、ライセンスキーを入力してください。



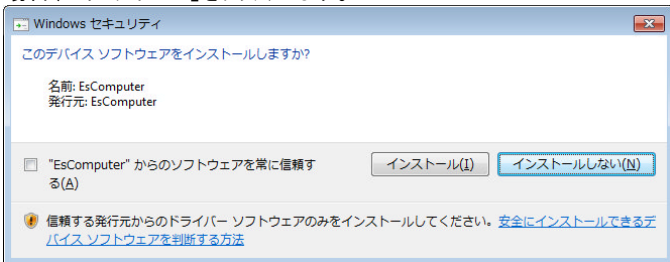
ライセンスキーは半角英数字で正確に入力する必要があります。

8. 「インストール先の選択」画面が表示されます。初期設定「C:\Program Files\LB MediaLock」(※)以外の場所にインストールしたい場合は「変更」をクリックしてインストール先を指定します。「次へ」をクリックすると、ファイルのコピーが始まります。

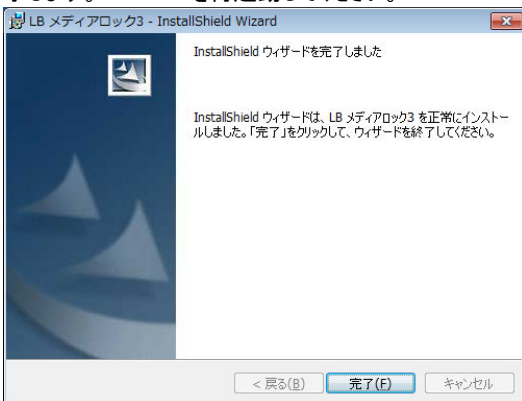
※ 64ビット OS の場合は「C:\Program Files(x86) \LB MediaLock」



9. デバイスドライバをインストールするためのセキュリティの警告メッセージが表示される場合、「インストール」をクリックします。



10. 「インストールを終了しました」画面が表示されます。以上でインストール作業は完了します。Windows を再起動してください。



第2節 LB メディアロック3のアンインストール

1. Windows 7 /Vista

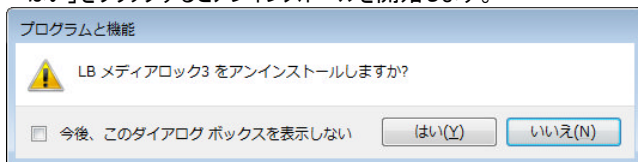
「スタート」-「コントロールパネル」-「プログラムと機能」-「LB メディアロック3」を選択して「削除」をクリックします。

Windows XP

Windowsの「スタートメニュー」-「コントロールパネル」-「アプリケーションの追加と削除」-「LB メディアロック3」を選択して「削除」をクリックします。

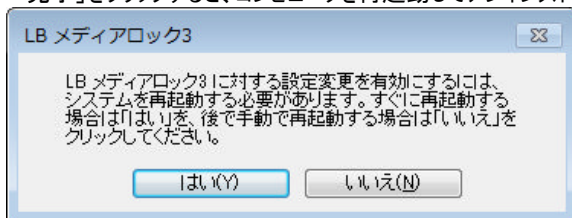
※ アンインストールを開始する前に、予め管理者権限のあるユーザで Windows にログオンしておく必要があります。

2. 「はい」をクリックするとアンインストールを開始します。



※ ユーザーアカウント制御によるソフトウェアの更新許可の確認画面が表示される場合 (Windows 7/Vista)は「はい」をクリックする必要があります。

3. 「完了」をクリックすると、コンピュータを再起動してアンインストールが完了します。



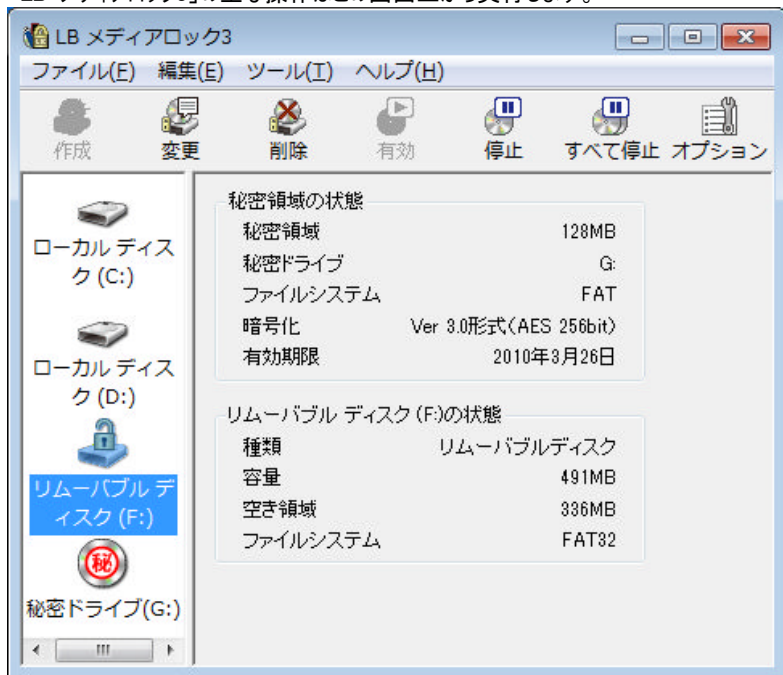
※ プログラムをアンインストールしても、作成した秘密領域およびコピーされたフリーレーサーは削除されませんが、秘密領域に重要な情報を保存している場合はアンインストールを実行する前に秘密領域を構成するファイルを必ずバックアップしてください。バックアップに必要なファイルについては P9 をご参照ください。

第4章 使用方法





第1節 ユーティリティ

スタートメニューから「LB メディアロック3 ユーティリティ」を選択するか、または、タスクトレイ内のアイコンをクリックすると、以下のユーティリティが起動します。

「LB メディアロック3」の主な操作はこの画面上から実行します。








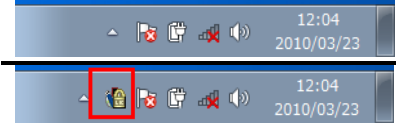


ステータスアイコンの種類について

パスワード	
	<p>秘密領域が存在するドライブ(秘密領域は有効中)</p> <p>現在有効になっている秘密領域が存在するドライブはこのアイコンが表示されます。</p>
	<p>秘密領域が存在するドライブ(秘密領域は停止中)</p> <p>停止中の秘密領域が存在するドライブはこのアイコンが表示され、選択すると「ユーティリティ」の右ウィンドウに秘密領域、ドライブの状態が表示されます。</p>
	<p>有効中の秘密領域(秘密ドライブ)※</p> <p>現在有効になっている秘密領域はこのアイコンが表示され、選択すると「ユーティリティ」の右ウィンドウに秘密領域の状態が表示されます。</p>
	<p>秘密領域が存在しないドライブ</p> <p>秘密領域の存在しないドライブはこのアイコンが表示され、選択すると「ユーティリティ」の右ウィンドウにドライブの状態が表示されます。</p>

※ 書き込みたいファイルをこのアイコンに直接ドラッグ＆ドロップすることはできません。
有効中の秘密領域(秘密ドライブ)のファイル操作は、「エクスプローラ」、「マイコンピュータ」を使用します。

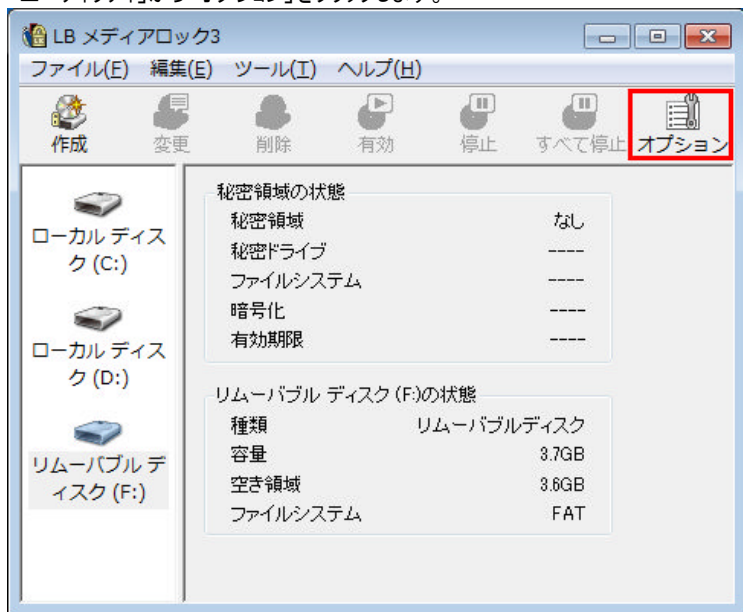
アイコンメニューの各ボタンについて

アイコン	説明
 作成	選択したドライブに秘密領域を作成します。
 変更	選択した秘密領域のパスワードやドライブレターの変更、Windows ログオン時に秘密領域を有効にするかどうかの変更をします。
 削除	作成した秘密領域を削除します。この場合、秘密領域に保存されているデータも削除されますので、ご注意ください。
 有効	無効になっている秘密領域をもう一度有効にします。このボタンを選択するとパスワード入力画面が表示されます。
 停止	指定した1つの秘密ドライブを停止します。秘密ドライブの利用を終了し、外部接続の機器を取り外す時は、必ずこの停止を行ってからWindowsの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」の処理を行ってください。
 すべて停止	すべての秘密ドライブを停止してアプリケーションから見えないようにします。
 オプション	<p>プログラムの動作に関する設定をします。タスクトレイでのアイコン表示／非表示の切り替え、『LB メディアロック 3 フリーレシーバー』のコピー設定、暗号化アルゴリズムの選択ができます。</p> <div data-bbox="264 1046 688 1177">  <p>上: アイコンをタスクトレイに表示しない 下: アイコンをタスクトレイに表示する</p> </div>

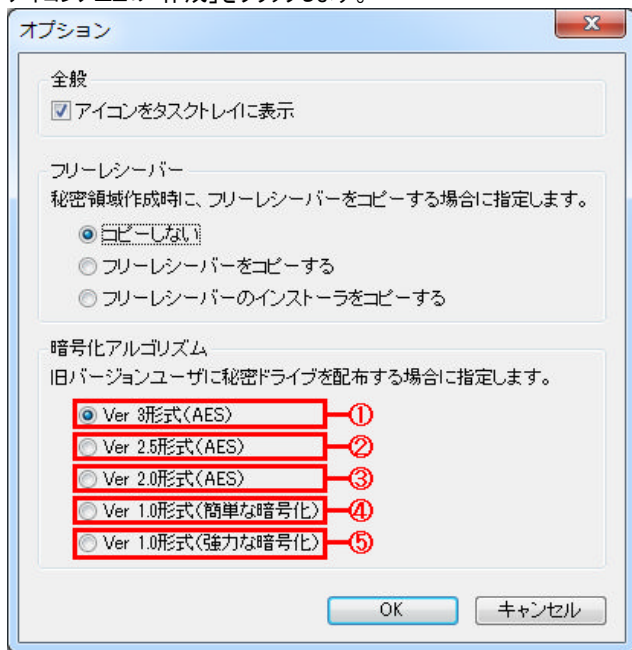
第2節 秘密領域の種類について

『LB メディアロック3』では4種類の秘密領域を作成することができます。用途に応じて使い分けてください。秘密領域の種類は次の手順で選択します。

1. 「ユーティリティ」から「オプション」をクリックします。



2. アイコンメニューの「作成」をクリックします。



※ フリーレシーバーのコピーについては P45 をご参照ください。

① 「Ver.3 形式(AES)」

AESで暗号化された秘密領域を作成します(256ビット/128ビットの鍵長選択、有効期限の設定をすることができます)。旧バージョン(キチッと秘密メディアロック)がインストールされた環境で秘密領域を使用する予定がない場合、この方式で作成することをお勧めします。

② 「Ver.2.5 形式(AES)」

AESで暗号化された秘密領域を作成します。旧バージョン(Ver.2.5)がインストール

された環境で使うことがある場合はこの形式を選択してください。

③「Ver.2.0 形式(AES)」

AES(鍵長128ビット)で暗号化された秘密領域を作成します。秘密領域を『キッツと秘密メディアロック2』(Ver.2.0)、『キッツと秘密メディアロック2 フリーレシーバー』(Ver.2.0)で使用する場合は、この形式を選択してください。

④「Ver.1.0 形式(簡単な暗号化)」(※)

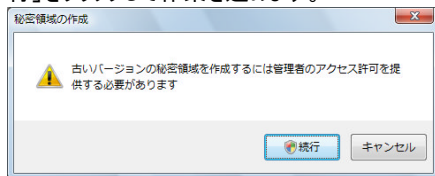
『キッツと秘密メディアロック』(Ver.1.0;旧バージョン)の簡単な暗号化と同じ方式により秘密ドライブを作成します。秘密領域を『キッツと秘密メディアロック』(Ver.1.0)で利用することを想定する場合に選択します。

⑤「Ver.1.0 形式(強力な暗号化)」(※)

『キッツと秘密メディアロック』(Ver.1.0;旧バージョン)の強力な暗号化と同じ方式により秘密ドライブを作成します。秘密領域を『キッツと秘密メディアロック』(Ver.1.0)で利用することを想定する場合に選択します。

※ Ver.1.0 形式の秘密領域をフリーレシーバーで使うことはできません。この形式で秘密領域を作成する場合、フリーレシーバーをメディアに添付することはできません。

※ Windows 7/Vista の環境では①「Ver. 3 形式」、②「Ver. 2.5 形式」以外の形式で秘密領域を「作成」、「有効」、「変更」、「削除」する場合、管理者の権限が必要となります。操作時に以下のような確認画面が表示されるので「続行」をクリックして作業を進めます。

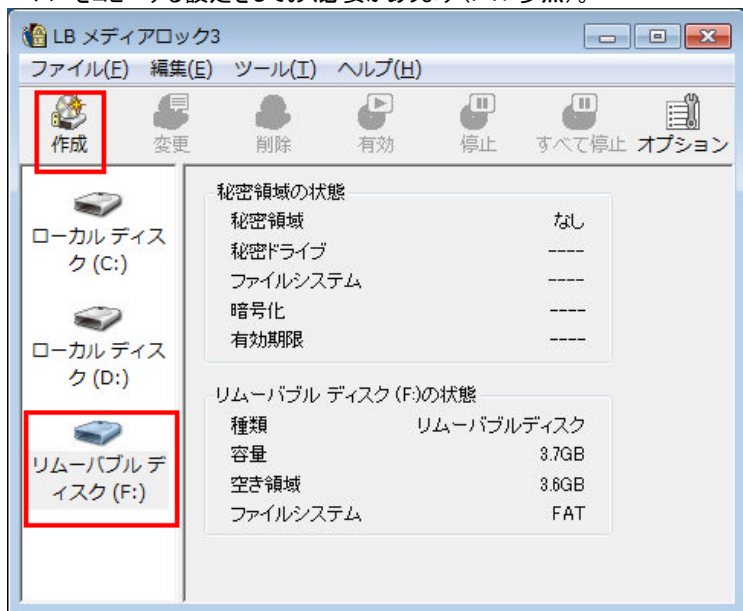


3. 作成したい秘密領域の種類を選択して「OK」をクリックします。これで設定は完了します。「ユーティリティ」から「作成」をクリックして秘密領域の作成をすれば、選択した設定で秘密領域が作成されます。

第3節 秘密領域の作成

秘密領域の作成手順について説明します。

1. 秘密領域を作成する元ドライブを選択して、アイコンメニューの「作成」をクリックします。
 ※ 秘密領域の種類は予め「オプション」から設定しておきます (P24 参照)。
 ※ 他のコンピュータで秘密領域を使用する場合は予め「オプション」からフリーレシーバーをコピーする設定をしておく必要があります (P41 参照)。



2. 「秘密領域の作成」画面が表示されます。秘密領域の容量、パスワード、秘密領域に割り当てるドライブレターを設定し、「OK」をクリックします。

The screenshot shows the '秘密領域の作成' (Secret Area Creation) dialog box. It contains the following elements with numbered callouts:

- 1**: Points to the '容量' (Capacity) slider, which is set between 1MB and 47407MB. Below the slider, it shows '128 MB' and a button labeled '空き容量全部' (All available space).
- 2**: Points to the checkbox labeled '秘密領域を作成する前に、すべてのファイルを削除する' (Delete all files before creating the secret area).
- 3**: Points to the 'パスワード' (Password) and 'パスワード確認' (Confirm password) input fields.
- 4**: Points to the 'ドライブレター' (Drive letter) dropdown menu, which is currently set to '自動' (Automatic).
- 5**: Points to the checked checkbox labeled 'Windowsの起動時に、この秘密領域を有効にする' (Enable this secret area at Windows startup).
- 6**: Points to the checkbox labeled '連続で間違ったパスワードを入力すると、秘密領域を破壊する' (If the wrong password is entered consecutively, destroy the secret area). Below it, a dropdown is set to '3' and the text '回で破壊します' (times will be destroyed) is visible.
- 7**: Points to the '暗号鍵長' (Encryption key length) dropdown menu, which is set to '256bit'.
- 8**: Points to the '使用期限' (Expiration date) field, which is set to '2010/03/18'.

At the bottom of the dialog are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

① 「容量」

秘密領域を作成する容量を指定します。既に使用済みのドライブを元ドライブに選択している場合、秘密領域を作成可能なドライブの空き容量は、「空き容量全部」ボタンをクリックすることで確認することができます。(ドライブに保存されている

データは保護されます。)

②「秘密領域を作成する前に、すべてのファイルを削除する」

データが保存されているドライブからデータを削除して、ドライブ全容量を秘密領域に割り当てます。

③「パスワード」

秘密領域のパスワードを1バイト以上の英数字、記号、空白を含む印刷可能な半角文字(半角カナを除く)で設定してください。ここで設定したパスワードは、秘密領域を使用する際に必要となりますので大切に保管してください。

※ ワーパスワードを紛失した場合、その秘密領域に保存されたデータにアクセスすることは不可能になりますのでご注意ください。

④「ドライブレター」

秘密領域として使用するドライブレターを選択します。ここで選択するドライブレターは自動で設定することもできますし、任意に指定することもできます。

⑤「Windows 起動時に、この秘密ドライブを有効にする」

Windowsにログオンする際に自動的に秘密領域を認証するためのパスワード入力を求められます。チェックを外すとログオン時にパスワードを求められませんので、このチェックを外した秘密ドライブを認証するには「LB メディアロック3 ユーティリティ」を起動して操作する必要があります。

⑥「連続で間違ったパスワードを入力すると、秘密領域を破壊する」

(Ver.1.0 形式では設定できません)

ユーザが設定した回数以上、間違ったパスワードが入力された場合に秘密領域を破壊します。例えば「3」を指定した場合、3回連続して間違えたパスワードを入力した時点で秘密領域が破壊されます。

※ このオプションを有効にすると、パスワード総当たり攻撃を受けた場合の危険性を軽減できますが、破壊された秘密領域を復元することはできないので、設定の際は十分ご注意ください。

※ 間違えたパスワードを入力した回数は次の操作でクリアされます。

正しいパスワードで秘密領域が認証された場合、パソコンの再起動、ログオン

ユーザの変更、サスペンドおよび休止状態に入った場合。インストールしないタイプの『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を終了した場合。

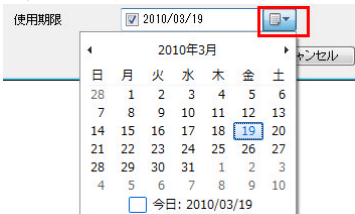
※ このオプションを選択して作成した秘密領域をリードオンリーメディアにコピーした場合、秘密領域をパスワード認証することはできません。

⑦「暗号鍵長」(Ver.3.0 形式のみ選択可能)

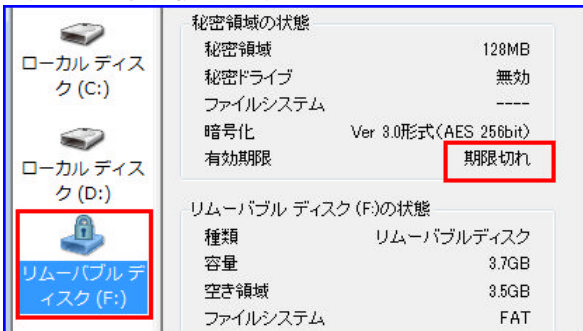
秘密領域に使用する暗号鍵長を選択します。128ビット/256ビットを選択することができます(初期設定;256ビットを使用すると、より強力に暗号化された秘密領域を作成することができます)。

⑧「有効期限」(Ver.3.0 形式のみ選択可能)

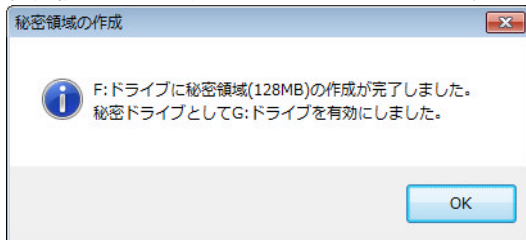
秘密領域の有効期限を設定します。日付の右にあるタブをクリックするとカレンダーが表示され、任意の日付を指定することができます。



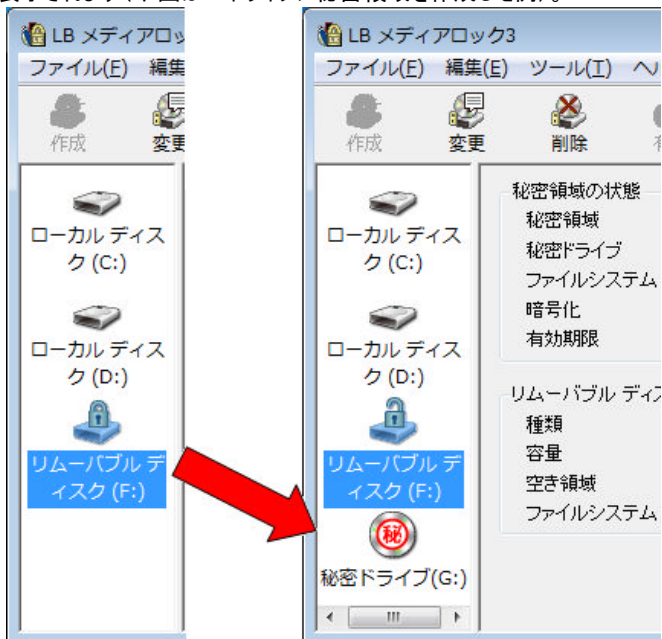
有効期限を過ぎた秘密領域は「期限切れ」と表示され、使用することができません。削除ボタンで秘密領域を削除してください。



秘密領域の作成が完了すると以下のメッセージが表示されます。

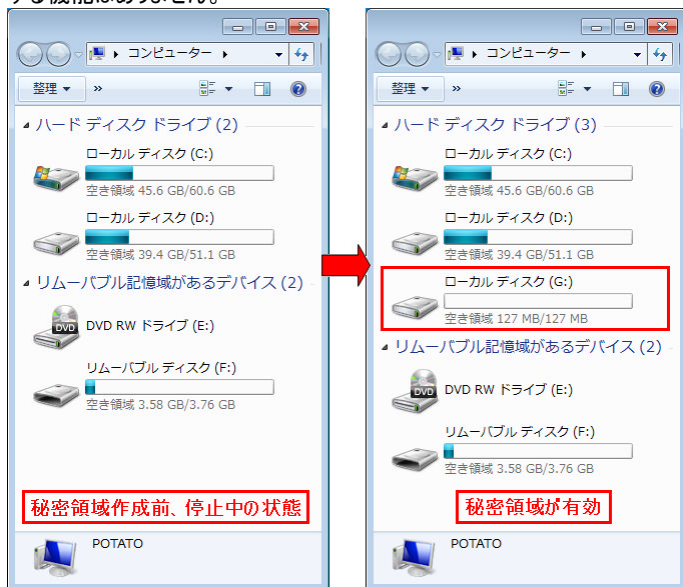


3. 秘密領域が作成され、「有効」になると、ユーティリティ上に秘密ドライブのアイコンが表示されます(下図は F ドライブに秘密領域を作成した例)。



エクスプローラ上では有効になった秘密領域が「ドライブ G:」として表示されます。有効な状態の秘密領域は、通常のドライブと同様にデータの読み書きを自由に行うことができます。

「有効」な状態の秘密領域は外部からの不正アクセス等のリスクからデータを保護する機能はありません。

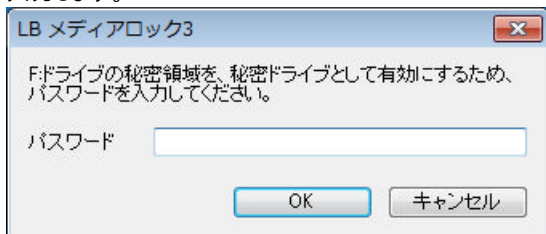


第4節 秘密領域を有効にする

ハードディスク上やリムーバブルメディアに作成済みの秘密領域を有効にして、秘密ドライブにアクセスする手順を説明します。

1. 秘密領域の存在するリムーバブルドライブをコンピュータに装着します。

2. パスワード入力画面が表示されるので、秘密領域作成時に設定したパスワードを入力します。



内蔵 HDD/SSD ドライブに秘密領域を作成している場合、作成時に「Windows 起動時に、この秘密ドライブを有効にする」のチェックをオフにしている場合、ユーティリティ上から秘密領域作成先ドライブを選択して「有効」をクリックします。

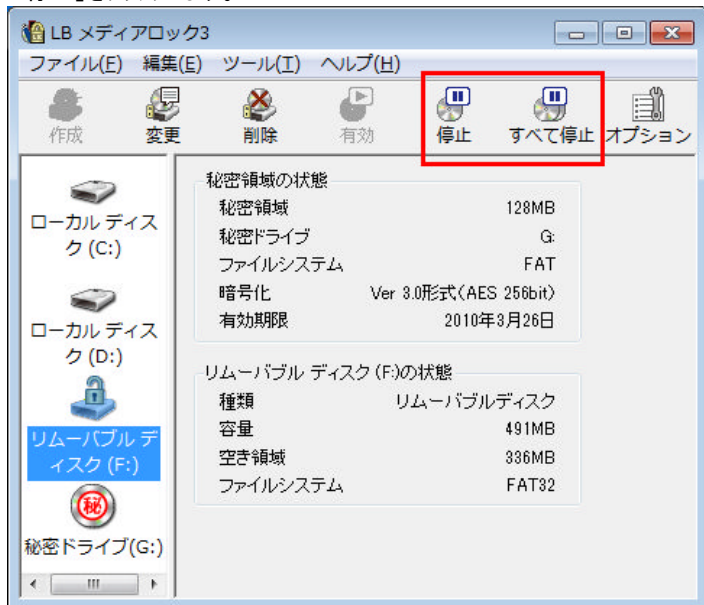
『LB メディアロック3』、『LB メディアロック3 フリーレシーバー』のいずれもインストールされていない環境ではこの画面は表示されません。

3. 「マイコンピュータ」に有効にした秘密領域が表示されますので、通常のドライブと同様にご利用いただけます（パスワード認証ができないときには、秘密ドライブは表示されません）。

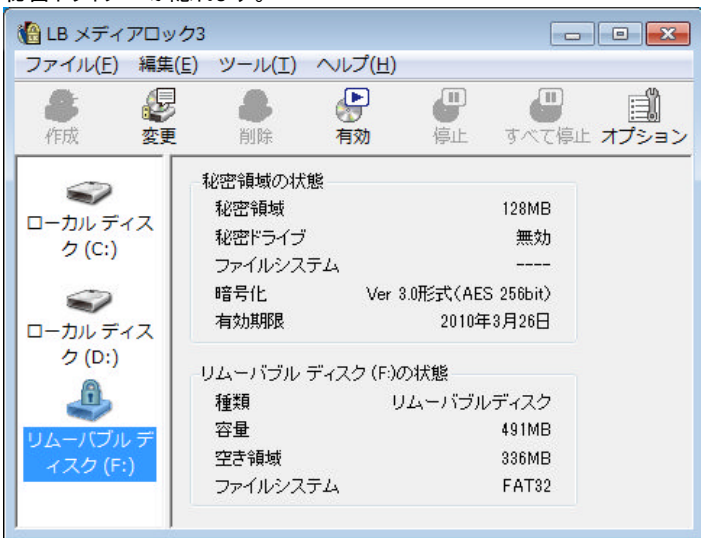
第5節 秘密領域を終了する

秘密領域を終了する(秘密領域を隠す)手順を説明します。

1. 「LB メディアロック3 ユーティリティ」を起動します。
2. 利用を終了したい秘密ドライブを選択し、アイコンメニューの「停止」をクリックします。
複数の秘密ドライブ(秘密領域)すべての利用を一括で終了したい場合は、「すべて停止」をクリックします。

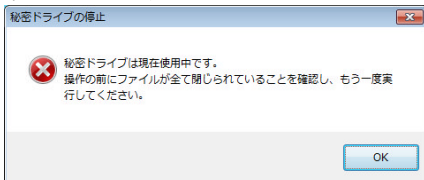


3. 秘密ドライブ G が隠れます。



秘密ドライブを終了できない場合

秘密ドライブに保存されたファイルが他のアプリケーションによって使用中の場合、「停止」をクリックしても下図のメッセージが表示されて秘密ドライブを終了できない場合があります。



このような場合は数分待ってから再度「停止」をクリックします。それでも停止できない場合は、以下を確認します。

(1) 起動中のアプリケーションをすべて停止する。

- (2) ウイルス対策ツールが秘密領域をスキャンしていないか。
 (3) 秘密領域に保存されたファイルをゴミ箱へ入れた場合、ゴミ箱を空にします。
 ※ 秘密領域の停止処理をせずにコンピュータをシャットダウン／再起動すると、秘密領域が破損して保存したデータを取り出せなくなる恐れがあります。

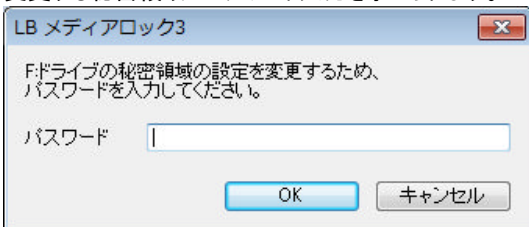
第6節 設定の変更

秘密領域の設定変更方法について説明します。

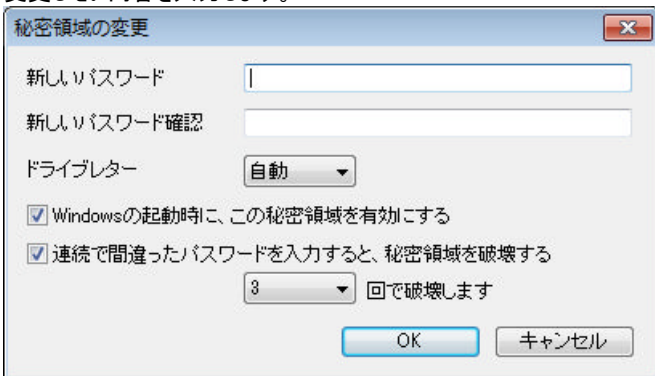
1. 「LB メディアロック3 ユーティリティ」を起動します。
2. 設定を変更したい秘密ドライブまたは秘密領域作成先ドライブを選択し、アイコンメニューの「変更」をクリックします。変更できる内容は「パスワード」、「ドライブレター」です。



3. 変更する秘密領域のパスワード入力を求められます。



4. 変更したい内容を入力します。



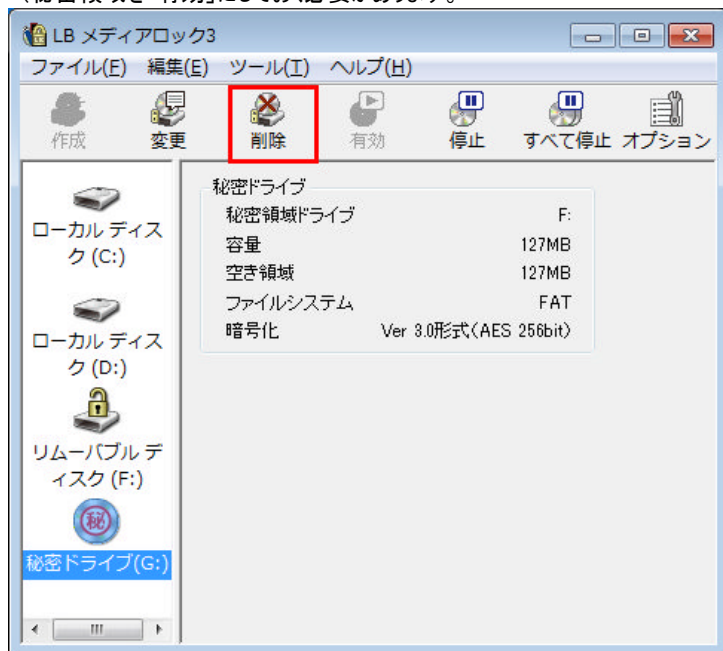
変更できる内容は次の4項目です。

- ① パスワード
 - ② ドライブレター
 - ③ Windows 起動時に、この秘密ドライブを有効にする
 - ④ 連続で間違ったパスワードを入力すると、秘密領域を破壊する
- ※ 各項目の説明については P28 をご参照ください。

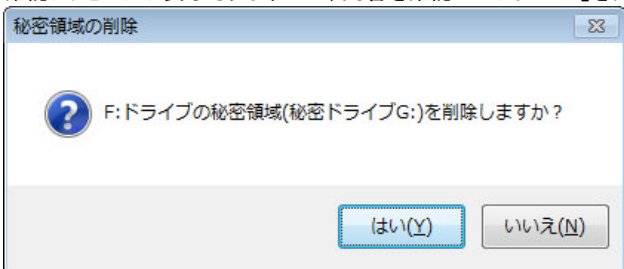
秘密領域の削除

秘密領域の削除方法について説明します。

1. 「LB メディアロック3 ユーティリティ」を起動します。
2. 削除したい秘密ドライブを選択し、アイコンメニューの「削除」をクリックします。
(秘密領域を「有効」にしておく必要があります。)



3. 確認メッセージが表示されますので、内容を確認してから「はい」をクリックします。



注意：秘密領域を削除すると、保存されていたデータも削除されます。削除する際には十分にご注意ください。

第7節 読み取り専用のメディアに秘密領域を作成する

読み取り専用のメディア（CD-R、DVD-R等）に秘密領域を作成するためには、予めハードディスク上に秘密領域を作成してから、秘密領域を構成するファイルをメディアへ書きこみます。

- ※ 『LB メディアロック3』は光学メディアに対するライティングの機能を備えておりません。Windowsのライティング機能や、他のライティングツールを利用して書き込みをします。
- ※ 読み取り専用メディアに書き込むための秘密領域は、作成時に「連続で間違ったパスワードを入力すると、秘密領域を破壊する」のオプションを無効にする必要があります。

作成の手順

1. ハードディスク上に秘密領域を作成します。
 - ※ 秘密領域のサイズは CD-R や DVD-R の最大サイズを超えないように設定します。（例：640MB の CD-R の場合は 600MB 程度に設定する）
 - ※ フリーレシーバーをコピーする場合は「秘密領域のサイズ」＋「フリーレシーバーのサイズ」＜「メディアのサイズ」となるように設定します。

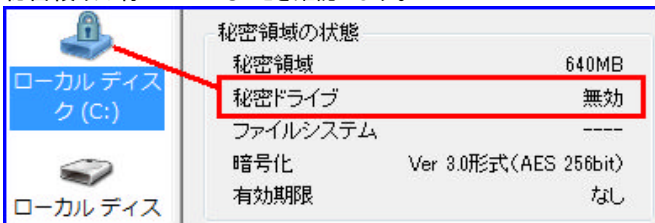
フリーレシーバーをコピーするために必要なディスク容量

インストールする必要のないタイプ: 6MB

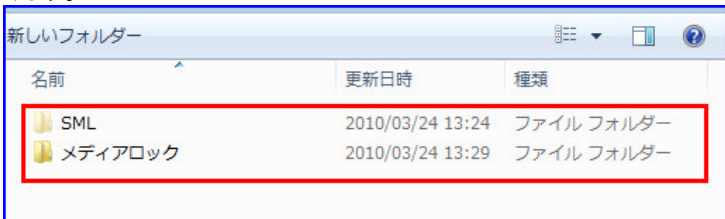
インストーラ: 8MB

2. 秘密ドライブにデータを書き込んだ後、停止します。

3. 秘密領域が停止していることを確認します。



4. 秘密領域作成先ドライブのルートにあるフォルダ「SML」をフォルダまるごとライティングソフトを使用してメディアへ書き込みます。
フリーレシーバーをメディアに含める場合は、フォルダ「メディアロック」も合わせて書き込みます。



※ フォルダ「SML」は隠し属性のため、存在を確認できない場合は、隠し属性ファイルが表示されるように Windows の設定を変更する必要があります。

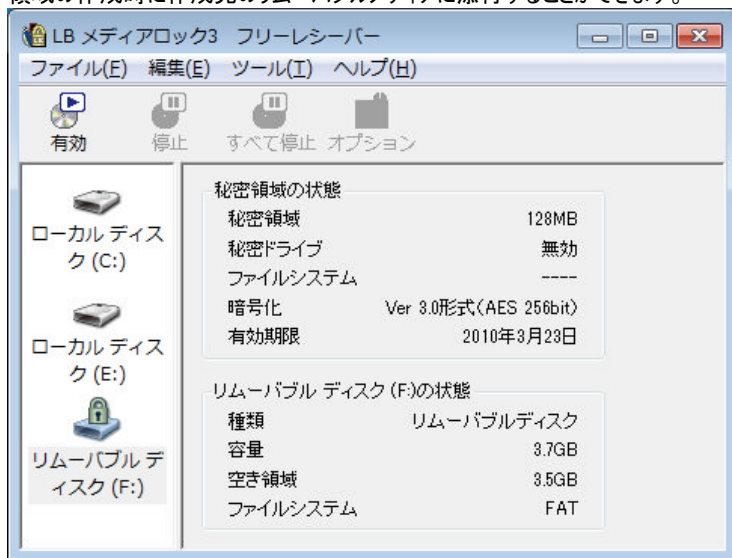
※ メディアへ書き込むファイルは必ずメディアのルートに書き込む必要があります。

第5章 フリーレシーバー

第1節 フリーレシーバーについて

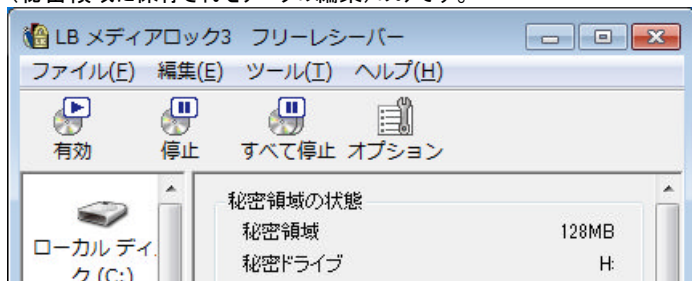
『LB メディアロック3 フリーレシーバー』は『LB メディアロック3』をインストールしていないパソコンで秘密領域の認証、編集をするためのツールです。

『LB メディアロック3』ユーティリティと同様のユーザインターフェースを備えており、秘密領域の作成時に作成先のリムーバブルメディアに添付することができます。



第2節 フリーレシーバーの機能

『LB メディアロック3 フリーレシーバー』の機能は『LB メディアロック3』および『キチッと秘密メディアロック2』を使用して作成された秘密領域の「**認証**」(有効、停止)と「**編集**」(秘密領域に保存されたデータの編集)のみです。



フリーレシーバー(インストーラ)は「オプション」(タスクトレイアイコンの表示／非表示を選択することができます。

第3節 フリーレシーバーご利用上の注意事項

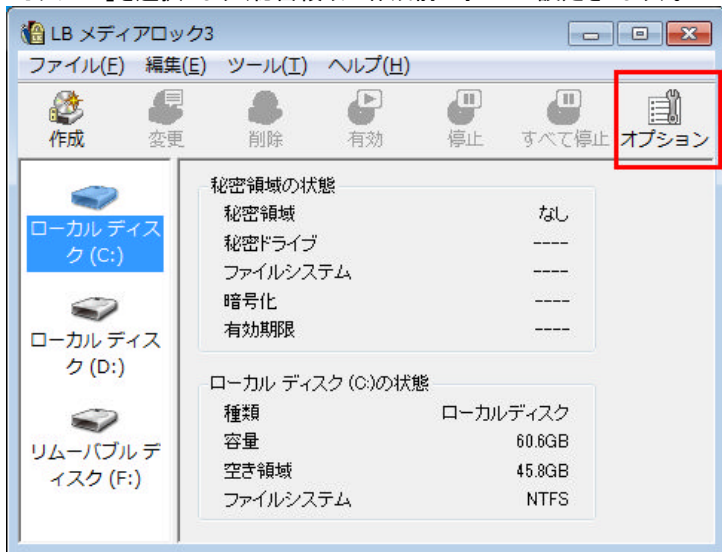
- 『LB メディアロック3 フリーレシーバー』は『LB メディアロック3』を所有する1人のユーザが複数のパソコン上で使用することができますが、このツールに対してのサポートは提供していません。予めご了承ください。
- 『キチッと秘密メディアロック』(Ver.1.0)、『キチッと秘密メディアロック はい〜KIT版』で作成された秘密領域を『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を使ってパスワード認証することはできません。
- 『LB メディアロック3 フリーレシーバー』には「インストール不要なタイプ」と「インストーラ」の2種類があり、秘密領域の作成時にどちらかを選択してメディアに添付することができます。

※ 『LB メディアロック3 フリーレシーバー』のインストーラによるインストール、アンインストールは管理者権限のあるユーザアカウントで実行する必要があります。

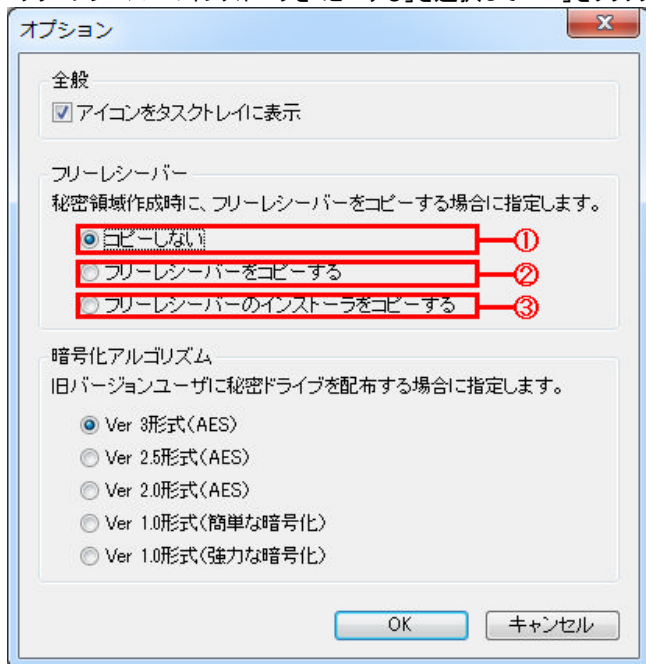
- インストール不要なタイプのフリーレシーバーを使用するためには、管理者権限のあるユーザアカウントでWindowsにログオンしている必要があります。
- インストール不要なタイプのフリーレシーバーを使用する場合、Windows XPの一部の環境にて、一度だけコンピュータの再起動が必要となることがあります。

第4節 フリーレシーバーをメディアに添付するには

1. 「オプション」を選択します(秘密領域の作成前に予めこの設定をします)。



- 「オプション」画面が表示されますので、「フリーレシーバーをコピーする」または「フリーレシーバーのインストーラをコピーする」を選択して「OK」をクリックします。



① 「コピーしない」

秘密領域の作成時に『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を作成先のメディア(ドライブ)にコピーしません。

② 「フリーレシーバーをコピーする」秘密領域の作成時に『LB メディアロック3 フリーレシーバー』(インストール不要)と関連ファイルを作成先のメディア(ドライブ)にコピーします。

③ 「フリーレシーバーのインストーラをコピーします」

秘密ドライブの作成時に『LB メディアロック3 フリーレシーバー』（インストーラ）を作成先のメディア（ドライブ）にコピーします。

「暗号化アルゴリズム」の選択についてはP25をご参照ください。

第5節 フリーレシーバーの使用法

インストールする必要のないタイプ

インストールする必要のないタイプの『LB メディアロック3 フリーレシーバー』は秘密領域の作成時に、次のようなファイルがメディアにコピーされます。

秘密領域を作成したメディアをエクスプローラ等で開くと、メディアのルートディレクトリには下図のように「¥SML」（隠し属性）、「¥メディアロック」という 2 つのフォルダが表示されます。フリーレシーバーはフォルダ「¥メディアロック」に格納されています。

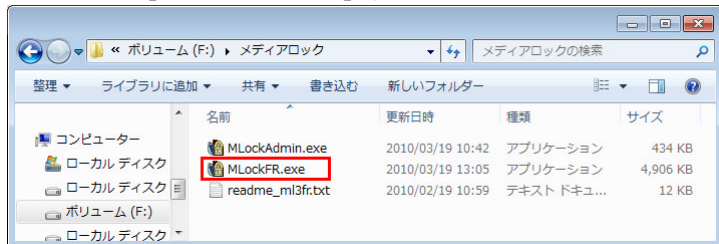
下図は Ver.3 形式で秘密領域を作成した場合



※ フォルダ「¥SML」には秘密領域を構成するファイルが保存されます。

Ver.2.0 形式で秘密領域を作成する場合もフリーレシーバーは「¥メディアロック」に格納されますが、秘密領域を構成するファイル(P9参照)は、メディアのルートディレクトリに保存されます。

「¥メディアロック」から「MLockFR.exe」を実行するとフリーレシーバーが起動します。



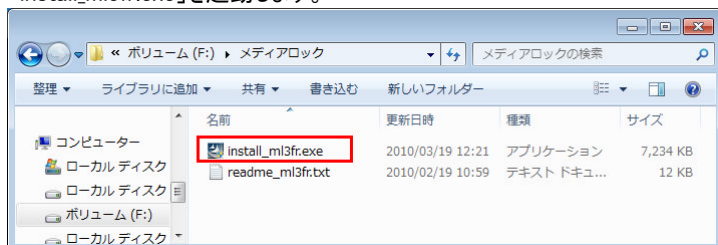
※ SML.dat、SML0.dat は秘密領域を構成する隠しファイル属性を持つファイルです。ファイルが見当たらない場合は、エクスプローラの「ツール」-「フォルダオプション」-「表示」-「ファイルとフォルダの表示」にある「すべてのファイルとフォルダを表示する」をチェックしてエクスプローラ上でこれらのファイルを表示させるなどにより存在を確認してください。

※ 『LB メディアロック 3』のユーティリティ上から秘密領域を削除しても秘密領域作成時にコピーされたフリーレシーバーは削除されません。

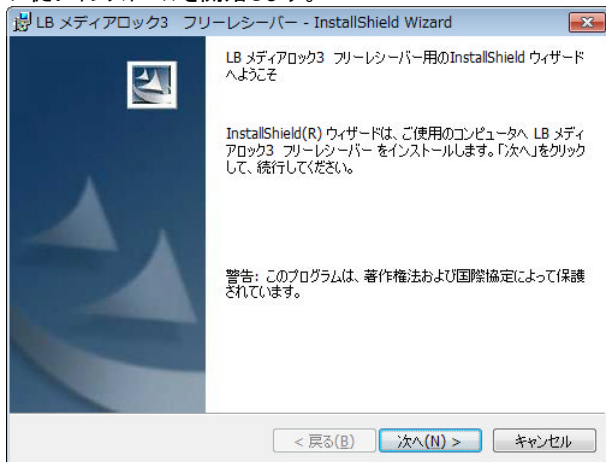
インストーラ

使用するためには使用するパソコンに『LB メディアロック3 フリーレシーバー』をインストールする必要があります。インストール方法を以下に説明します。

1. 秘密領域を作成したメディア（ドライブ）のフォルダ「¥メディアロック」から「install_ml3fr.exe」を起動します。



2. 『LBメディアロック3 フリーレシーバー』のインストーラが起動するのでウィザードの指示に従いインストールを開始します。



3. インストール完了後、「スタート」メニューの「LB メディアロック3 フリーレシーバー」を選択して『LB メディアロック3 フリーレシーバー』を起動することができます。
※ ご使用の環境によりコンピュータの再起動が必要となる場合があります。

第6章 キチッと秘密ファイルロック

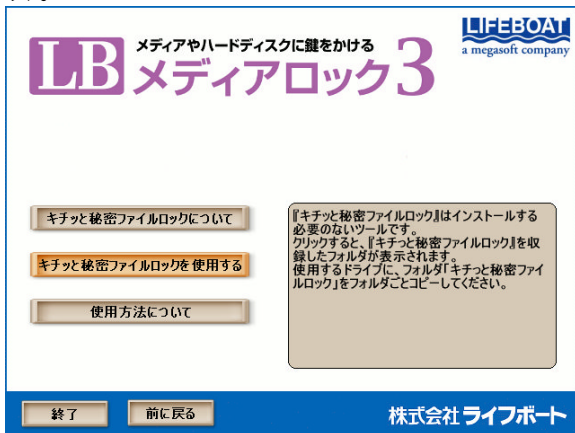
第1節 キチッと秘密ファイルロックについて

『キチッと秘密ファイルロック』は、ファイルやフォルダを手軽に暗号化することができるソフトウェアです。暗号化、復号化はドラッグ & ドロップの簡単な操作で実行でき、データの機密性を確保します。

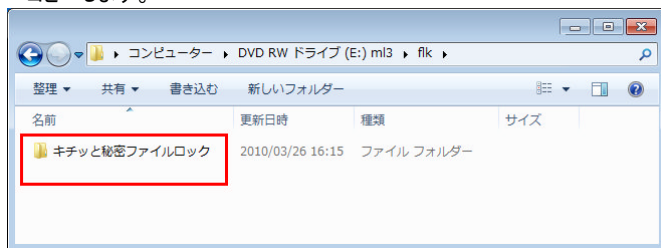
第2節 ファイルの準備

『キチッと秘密ファイルロック』はインストール不要のツールです。CD-ROMからメディアへファイルをコピーして使用します。

1. CD-ROM のメニューを起動して「次へ進む」-「キチッと秘密ファイルロック」-「ファイルをコピーする」の順に選択します（保存先のフォルダは「¥¥¥¥キチッと秘密ファイルロック」です）。



2. ファイルマネージャーが起動します。「¥キチッと秘密ファイルロック」をフォルダごとメディアへコピーします。

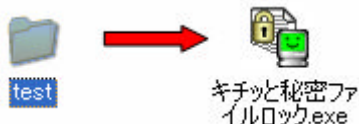


3. 「¥キチッと秘密ファイルロック」には以下のファイルが保存されています。
キチッと秘密ファイルロック.exe キチッと秘密ファイルロックの実行ファイルです。
flk_guide.pdf 簡単な利用方法を記載したドキュメントです。

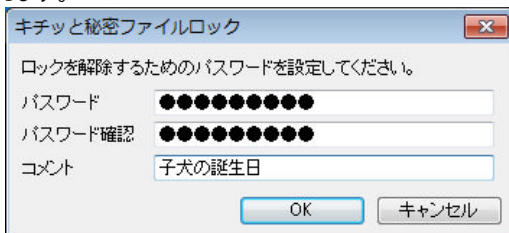


第3節 使用方法

1. ファイル、フォルダの暗号化
(1) 暗号化したいファイル／フォルダを『キチッと秘密ファイルロック』のアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップします。



- (2) パスワードの入力画面が表示されるのでパスワードを入力して「OK」をクリックします。



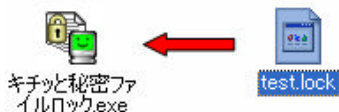
暗号化したファイル／フォルダはファイル拡張子「.lock」形式のファイルとして「キッチと秘密ファイルロック.exe」が存在するフォルダに出力されます（初期設定）。

例：

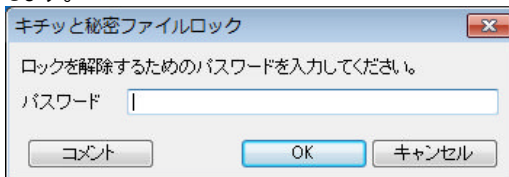
元のファイル／フォルダ名	暗号化したファイル名
test.txt	test.txt.lock
test.exe	test.exe.lock
¥test（フォルダ）	test.lock

2. ファイル、フォルダの復号化

- (1) 『キッチと秘密ファイルロック』で暗号化したファイル*.lock を『キッチと秘密ファイルロック』のアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップします。



- (2) パスワードの入力画面が表示されるのでパスワードを入力して「OK」をクリックします。



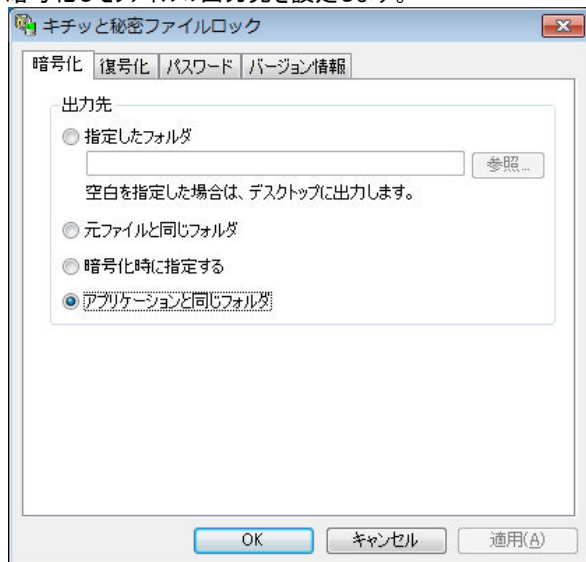
復号化したファイル／フォルダはデスクトップに出力されます（初期設定）

3. 設定の変更

暗号化、復号化の設定はアプリケーションを起動して変更することができます。「キチッと秘密ファイルロック.exe」のアイコンをダブルクリックして起動します。

<暗号化>

暗号化したファイルの出力先を設定します。



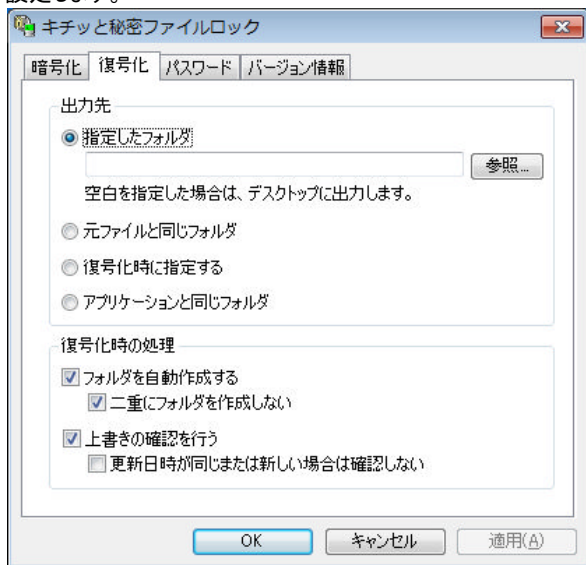
画面の説明

出力先	
指定したフォルダ	「参照」をクリックして暗号化したファイルの出力先を指定します。
元ファイルと同じフォルダ	暗号化する前のファイル／フォルダが存在するフォルダに暗号化したファイルを出力します。

暗号化時に指定する	ファイルをアプリケーションアイコンにドラッグ & ドロップした時に出力先を指定するウィンドウが表示されます。
アプリケーションと同じフォルダ (初期設定)	「キチッと秘密ファイルロック.exe」が存在するフォルダに暗号化したファイルを出力します。

<復号化>

復号化時の設定をします。復号化するファイル／フォルダの出力先、復号化の処理を設定します。



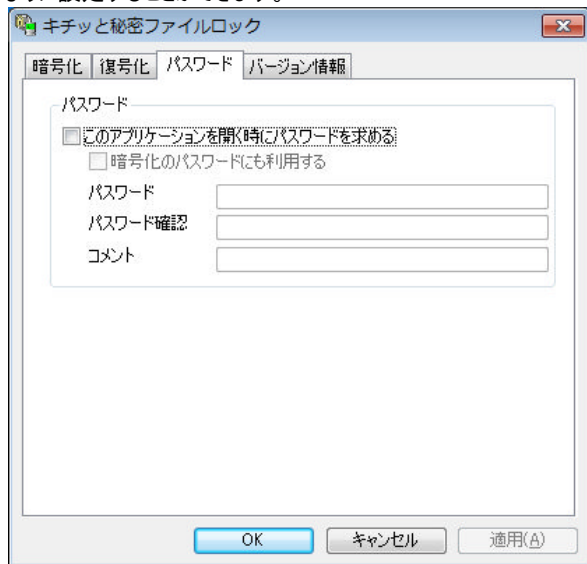
画面の説明

出力先	
指定したフォルダ	「参照」をクリックして復号化するファイル／フォルダの出力先を選択します（初期設定は「デスクトップ」です）。
元ファイルと同じフォルダ	暗号化されたファイルが存在するフォルダに復号化するファイル／フォルダを出力します。
復号化時に指定する	ファイルをアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップした時に復号化するファイル／フォルダの出力先を指定します。
アプリケーションと同じフォルダ	「キチツと秘密ファイルロック.exe」が存在するフォルダに復号化するファイル／フォルダを出力します。

復号化時の処理	
フォルダを自動作成する	復号化時にフォルダを自動作成して復号化するファイル／フォルダを格納します。
二重にフォルダを作成しない	フォルダを二重に作成しません。
上書きの確認を行う	復号化するファイル／フォルダの出力先に既に同じ名前のファイル／フォルダが存在する場合、上書きの確認メッセージを表示します。
更新日時が同じまたは新しい場合は確認しない	復号化するファイル／フォルダの更新日時が同じまたは新しい場合は上書きの確認メッセージを出力せずそのまま上書きします。

<パスワード>

パスワードに関する設定をします。アプリケーションの起動時にパスワード入力を求めるように設定することができます。



画面の説明

パスワード	
このアプリケーションを開く時にパスワードを求める	キッチと秘密ファイルロックの起動時にパスワードの入力が必要となります。
暗号化のパスワードにも利用する	暗号化用のパスワードを予め指定します(暗号化時のパスワード入力画面が表示されなくなります)。
パスワード	使用するパスワードを入力します。パスワードは1～63文字までの英数字、記号、空白を含む半角文字

	(半角カナを除く)を指定することが可能です。
パスワード確認	パスワードを再入力して、設定したパスワードに間違いがないことを確認します。
コメント	パスワードのヒント等を入力します。

LB メディアロック 3 利用ガイド

2010 年 4 月 23 日

第 1 版 第 1 刷発行

(非売品)

著作 株式会社ライフポート

発行所 株式会社ライフポート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

©2010 株式会社ライフポート



LB メディアやハードディスクに鍵をかける 3